

熊本 SJCD 例会抄録(2018.3.27)

i. 表題

重度歯周炎患者に対する全顎的治療計画の模索

ii. 発表者氏名 所属機関

影下 裕晃 添島歯科クリニック

iii. 略歴

2014年 東京歯科大学歯学部 卒業
2015年 九州大学病院 臨床研修 修了
2015年 九州大学病院口腔総合診療科 勤務
2016年 添島歯科クリニック 勤務

iv. 所属団体

日本臨床歯科医学会 熊本支部

v. 抄録本文

全顎修復治療の場合、必要かつ十分な基礎資料を採得し、診査診断を行い、治療ゴールを定め、一口腔単位での治療を行うことが重要である。その場合、一歯単位での正確な診査診断と処置の積み重ねが包括的アプローチの成功につながる。

しかしながら経験の浅い歯科医師の場合、適切な診断以前に処置を行い、その結果、治療に行き詰まることがある。

今回は重度歯周炎患者に対し、自ら基礎資料を採得し全顎治療を進めたものの診査診断が不十分であったために治療を仕切り直ししたケースについて発表する。

現在歯周初期治療が終了し、修復予定歯をテンポラリークラウンに置き換えた状態であるが、症例に対する改善点や反省を含め発表する。

スライド内容から、構成、発表の態度まで、諸先生方の温かいご指導をいただければ幸いです。